



小学3年生の時の井島さん
(平成26年)



あの赤ちゃんが本市と共に成長し二十歳に
「生まれ育った合志市が好きです」

広報こうし創刊号の表紙を飾った、当時生後3カ月だった井島沙希さん。「小学生の時に表紙のことを聞き、何で?と思いました。今は誇りに思っています」と笑顔で話しました。

幼い頃の思い出について尋ねると、「習い事で忙しかったのですが、近くの公園や西合志図書館によく行っていました。習字教室やバレエの発表会などで、御代志市民センターも馴染みがあります」と答えた井島さん。「カントリーパークで開催された音楽イベントに昨年初めて行きました。実家から歩いて行けるので嬉しいですよ」と、若者らしい一面も覗かせました。

今、大学では勉学に励みながら文化祭実行委員会の活動も楽しんでいると言います。実家を離れて学生生活を送る中、改めて実感したのが、ふるさと・合志市の良さでした。「周りの人が温かくて、繋がりも深いですね。そんなに田舎でも都会でもなく、住みやすいと思いました。生まれ育った合志市のことが好きです。大学を卒業したら合志市に戻りたいです」。



合志市誕生から20年

激動の時代を乗り越え 次のステージへ

平成18年2月27日、県内14番目の市として産声を上げた本市。当時、52,516人だった人口は、令和6年に65,000人を突破し、全国的に人口減少・少子高齢化が深刻化する中、人口が増加している自治体として注目されてきました。

この間、熊本地震や令和7年8月豪雨などの自然災害、新型コロナウイルス感染症の感染拡大といった、日常の生活や経済活動などに大きな影響を与える事態を市民一丸となって乗り越えました。

近年は、TSMCの進出を契機としたセミコンテックパーク周辺への半導体産業の集積や、中九州横断道路をはじめとする交通インフラ整備が加速し、大きな変化の波を迎えています。これを好機ととらえ、都市基盤の整備、地域防災力の強化などの取り組みを引き続き進める必要があります。

本市は、誰もが安全・安心に、健康で幸福に暮らし続けることができる都市の実現に向け、次のステージへと歩みを進めます。

合志市制施行20周年記念式典

と き 5月30日(土)午前10時～

ところ 市総合センター「ヴィーブル」文化会館

内 容 功労者表彰・ボランティア表彰など

※一般参加はできませんが、式典の様子は後日、広報こうしで紹介する予定です



15周年記念式典(令和3年11月)

20年間の主な出来事

平成28年	平成27年	平成26年	平成25年	平成24年	平成22年	平成18年
3月	9月	3月	2月	2月	2月	2月
人口60,000人突破	谷山佳菜子さんが市ふるさと大使第1号に	郷土の歴史マンガ「カタルパの樹」合志義塾ものがたり『完成	須屋支所が須屋市民センター内に移転	菊池恵楓園将来構想に基づき、園内に「かえでの森」こども園「開所	自治基本条例制定 コミュニティバス運行本格開始 人口55,555人突破	合志市誕生

令和6年	令和5年	令和4年	令和3年	令和2年	令和元年	平成31年	平成30年	平成29年	
12月	7月	11月	10月	4月	4月	12月	3月	5月	4月
竹田麗央さんに市ふるさと大使を委嘱	人口65,000人突破	栄誉賞 剣道・渡邊タイ選手に市民	新御代志駅開業	合志楓の森小学校・合志楓の森中学校開校	合志楓の森小学校・合志楓の森中学校開校	中九州横断道路「大津熊本道路」(合志)「熊本」事業化決定	ルーロ合志オープン	北熊本スマートインターチェンジ供用開始	分庁方式から庁舎一本化 熊本北合志警察署新設